



2022年2月14日

各 位

会 社 名 K u d a n 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 C E O 項 大 雨
(コード番号 4425 東証マザーズ)
問 合 せ 先 執 行 役 員 C F O 中 山 紘 平
(T E L . 0 3 - 4 4 0 5 - 1 3 2 5)

営業外収益・営業外費用・特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、2022年3月期第3四半期において、営業外収益・営業外費用・特別損失を計上いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 営業外収益の計上

ポンド・ユーロの為替レートの変動に起因して為替差益24百万円を営業外収益に計上しました。

2. 営業外費用の計上

当社持分法適用会社であった Artisense Corporation (本社：米国カリフォルニア州、以下「アーティセンス社」といいます。)において発生した期中損益の取り込み等、「持分法に関する会計基準」に基づき、持分法による投資損失403百万円を営業外費用に計上しました。

2021年12月10日付でアーティセンス社を子会社化し、これに伴う当社新株発行により株式交付費7百万円を営業外費用に計上しました。

3. 特別損失の計上

アーティセンス社の買収により、グローバルでの技術優位性において従来より築いてきた AP (人工知覚) における專業独立企業としての独占的なポジションをより強化することができ、中長期的な顧客製品化の早期化及び収益機会拡大に寄与する案件ポートフォリオの質の向上も達成しました。

一方で、2021年3月期決算時においては、新型コロナウイルス感染症の影響やアーティセンス社の新技術『VINS』の提供開始の遅れにより、アーティセンス社の2020年12月期の売上高拡大の遅延が生じ当初事業計画値との乖離が生じました。これと合わせて新型コロナウイルス感染症の影響の継続による市況回復の不確実性も踏まえ、将来の業績見通しを保守的に見積もった結果、2021年3月期決算ではアーティセンス社への投資有価証券及び貸付金全額を評価減

しました。

当第3四半期においても、将来技術の獲得目的を考慮し業績見通しを保守的に見積もり、アーティセンス社の子会社化に伴うのれん全額を評価減しました。この結果、減損損失1,472百万円を特別損失に計上しました。

その他、アーティセンス社の子会社化に伴い段階取得に係る差損50百万円を特別損失に計上しました。

上記営業外収益・営業外費用・特別損失の計上による業績への影響につきましては、本日公表いたしました「2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」に反映しております。

■お問い合わせ先は[こちら](#)